

令和7年度全国学力・学習状況調査

結果分析

寒川町教育委員会

令和7年12月

目 次

はじめに 寒川町教育委員会の姿勢 ～変わらずに大切なこと～	・・・ 2
1 子どもたちを支える環境づくり	
◇基礎・基本的な生活習慣について	・・・ 6
◇主体的な学習を支える基盤づくりについて	・・・ 11
2 資質・能力を育むための授業づくり	
～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善～	
◇資質・能力を育むために	・・・ 16
◇調査結果	・・・ 18
調査結果 国語 算数・数学 理科	
◇ICT 機器を生かしたこれからの学習活動とは	・・・ 31
3 今後に向けて	
～今までも大切にしていたこと、これからも大切にすること～	
◇家庭で育まれていること、これからも育んでほしいこと	・・・ 33
◇学校で育まれていること、これからも育んでいくこと	・・・ 34
◇主体的・対話的で深い学びの授業改善を通して育まれたこと、 これからも育んでいきたいこと	・・・ 37
◇教室を離れても学び続ける子どもの姿を…	・・・ 37

寒川町教育委員会の姿勢 ～変わらずに大切なこと～

全国学力・学習状況調査は平成 25 年度から、全国全ての小学校、中学校を対象に調査が行われてきました。令和 7 年度の調査の目的は次のとおりです。

【調査の目的】¹

- 学力や学習状況を把握して、分析すること
- 教育施策の成果と課題を検証して、その改善を図ること
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てること
- 教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立すること

これとともに、変わらないこととしては、

【調査結果の取扱いに関する配慮事項】²

- 本調査の目的や、調査結果が学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であること
- 序列化につながらない取組が必要であること

この部分について、令和 7 年度の全国学力・学習状況調査に関する実施要領でも、

【調査結果の取扱いに関する配慮事項】

- 調査により測定できるのは学力の特定の一部であること
- 学校における教育活動の一側面であること
- 序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮すること

この調査で分かることは学力の特定の一部であること、この調査結果を受けて、序列化や過度の競争が生まれないよう配慮することが求められています。

＊「全国学力・学習状況調査に関する実施要領」については、以降「実施要領」と表記する。

1【調査の目的】 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。（令和 7 年度 実施要領より）

2【調査結果の取扱いに関する配慮事項】 調査結果の公表にあたっては、本調査の目的や、調査結果が学力の特定の一部であることなどを明示するとともに、序列化につながらない取組が必要。（平成 25 年度 実施要領より）

寒川町教育委員会では令和7年度についてもこのことをしっかりと受け止め、全国学力・学習状況調査を次のように取り扱い、寒川町の教育のより一層の発展を目指していきます。

【寒川町教育委員会として】

- 序列化や過度な競争が生じないように配慮します。
(調査結果については、単に平均正答数や平均正答率などの数値のみの公表は行いません。)
- 学力の特定的一部分、教育活動の一側面であることに十分に留意します。
(他の市町村や過去の結果との数値のみの比較に終わらず、平均正答数や平均正答率の現状についてしっかりと受け止めていきます。)
- 調査結果について分析を行い、その分析結果を併せて公表します。
- 調査結果の分析を踏まえた今後の改善方策を示していきます。
- 調査結果の分析内容や改善方法については、寒川町ホームページに掲載するだけでなく、家庭版学校教育だより等で家庭への発信をし、家庭と共に学習について考えていきます。

また、次のことを踏まえて分析をしていきます。

【分析をする上での留意点】

- 学校での教育実践と調査結果との関わりについて検証していきます。
- 「これまでに取り組んで『強み』になったこと」を成果としています。
- 「これまでも取り組んできて、これからも取り組んでいきたいこと・より重点的に今後取り組みたいこと」を課題とします。
- 寒川町の児童・生徒やその保護者の取組、また教職員の教育実践の方向性について、学習指導要領やこれから求められる力と関連付けていきます。

～学びの主役は子ども～

小学校は令和２年度、中学校は令和３年度から全面実施された学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善³が求められ、教員が「何を教えるか」から児童・生徒を主語にした「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」に視点が変わりました。つまり、児童・生徒が学びの主役となり学習を進めることが求められています。

児童・生徒が主体的な学びを追究していくためには、子ども自身が興味を持って積極的に取り組むとともに、課題を見い出し、見通しを持って粘り強く授業に取り組めるような教師の工夫や努力が必要です。また、対話的な学びを深めるためには、自分の考えを他者に伝えたい・話したいと思わせる場の設定や、有意義な話し合いをするための教師の働きかけ、子どもたちが行っていることの価値づけが大事となってきます。そして、１人１台端末等のＩＣＴ機器を活用し、情報を収集、思考の整理、意見の発信、他者との意見共有等、児童・生徒が有効に活用できる場面での使用が求められています。さらに、深い学びを追究していくためには、教科特有の見方・考え方を働かせて、教科の本質に迫る授業を構想する必要があります。このような日々の授業の積み重ねによって、子どもたちに、「生きる力」⁴を育むことができます。

寒川町では、学習指導要領の趣旨に則り、「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の実現に向けて取り組んでいます。また、コミュニケーション力や意欲、忍耐力など、数値での測定が難しい能力、非認知能力を伸ばすことも重視しています。児童・生徒のやりたい！という気持ちや新しい物事への想像力を育み、結果だけではなく努力の過程を認め、自己効力感や自信を高められるように取り組んでいます。

全国学力・学習状況調査の結果は学力の一部ではありますが、これまでの取組が反映されたものとして真摯に受け止め、今後に生かしていく必要があります。引き続き、学校、地域、家庭が一緒になって、子どもたちの未来のために学校教育を進めていきたいと考えております。

3（「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善）子どもたちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、これまでの学校教育の蓄積を生かし、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要であり、我が国の優れた教育実践に見られる普遍的な視点である「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）を推進する必要がある。

（学習指導要領解説 総則編より）

4【生きる力とは】今回の改訂においては、情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて加速度的に進展するようになってきていることを踏まえ、複雑で予測困難な時代の中でも、児童・生徒一人一人が、社会の変化に受け身で対応するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、自らの可能性を発揮し多様な他者と協働しながら、よりよい社会と幸福な人生を切り拓き、未来の創り手となることができるよう、教育を通してそのために必要な力を育んでいくことを重視している。

（学習指導要領解説 総則編より）

Ⅰ 子どもたちを支える環境づくり

◇ 基礎・基本的な生活習慣について

- ・ 基礎・基本的な生活リズムの安定が学習意欲を高めます
- ・ 計画的な学習によって、学びの定着が図られます

◇ 主体的な学習を支える基盤づくりについて

- ・ 主体的な学習を支える基盤づくり
- ・ 資質・能力の育成に向けて ICT を効果的に活用する

Ⅰ 子どもたちを支える環境づくり

◇基礎・基本的な生活習慣について

基礎・基本的な生活リズムの安定が学習意欲を高めます

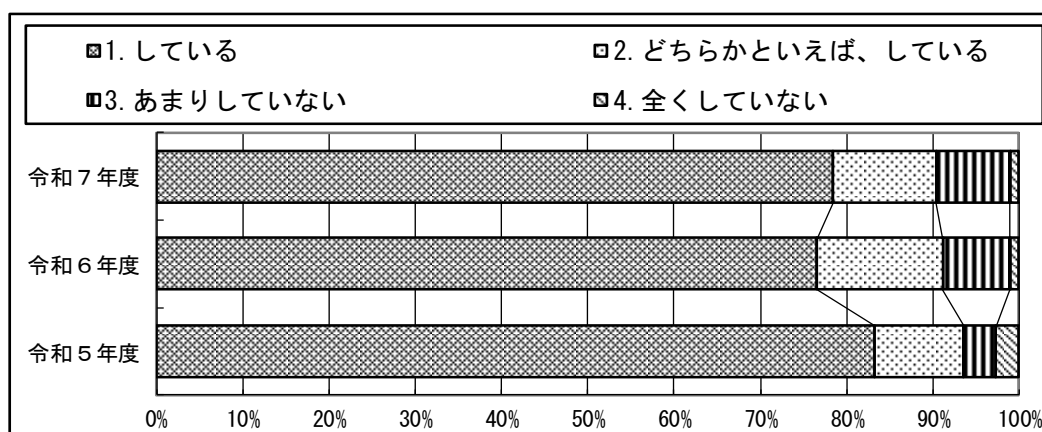
子どもたちが健やかに成長していくためには、調和のとれた食事、十分な休養・睡眠が大切です。早寝・早起きを中心とした生活リズムを安定させるためには、家庭の支えが大きく関わってきます。家庭での協力を得て、児童・生徒が規則正しい生活を送ることができ、学校での学習においても集中力を発揮し、取り組むことができます。

以下は児童・生徒質問紙調査での、児童・生徒の基本的な生活習慣についての項目です。

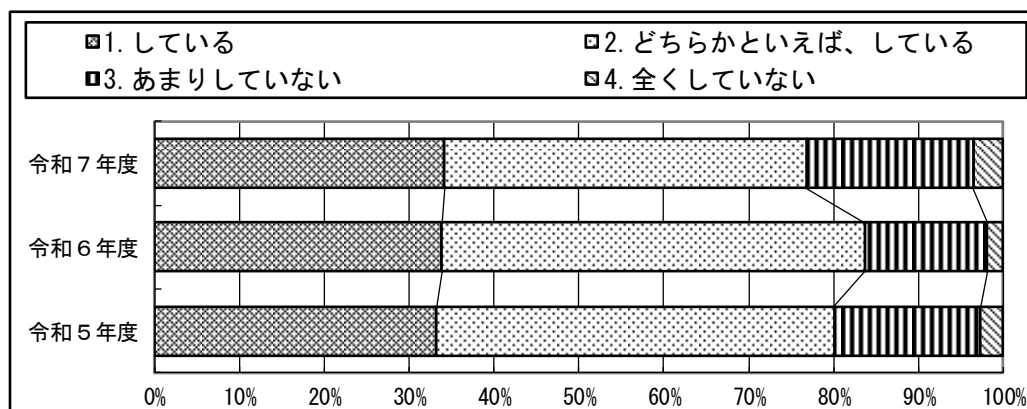
【児童・生徒質問紙（１）「朝食を毎日食べていますか」】、【児童・生徒質問紙（２）「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」】、【児童・生徒質問紙（３）「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」】については、多くの子どもたちが、毎日朝ごはんを食べ、決まった時刻に起きる規則正しい生活を送っていることがわかります。小学校では、朝食を食べている児童の割合、決まった時刻に起きている児童の割合は前年度と比べると増加しています。規則正しい生活を送ることが習慣化することにより、子どもたちは学校での授業においても、集中して取り組むことができます。一方、中学校では、朝食を食べている生徒の割合が減少していることが気になります。今後も注意して見ていく必要があります。これからも、「早寝・早起き・朝ごはん」を合言葉に取り組んでいきます。

【小学校】

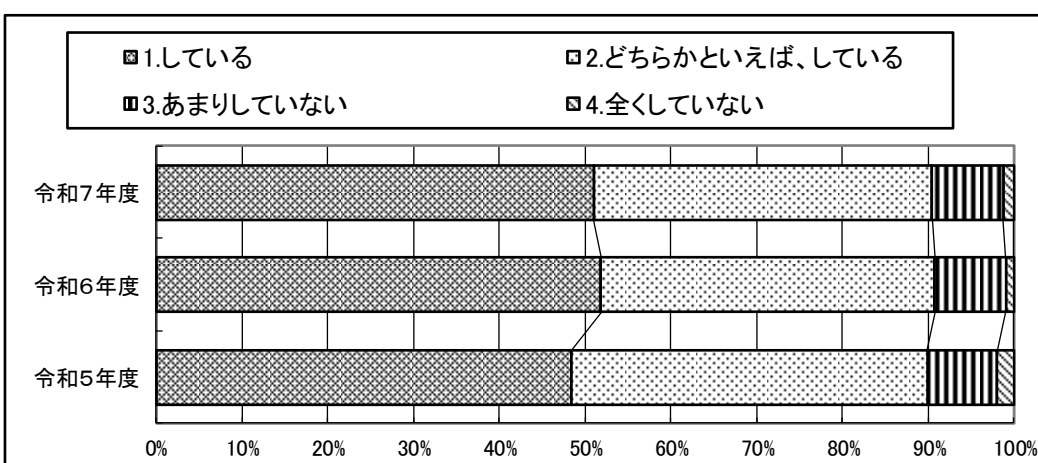
質問番号	質問事項					
(1)	朝食を毎日食べていますか					
選択肢	1	2	3	4	5	食べている (1+2)
令和7年度	78.5	11.9	8.6	1.0		90.4
令和6年度	76.6	14.6	7.8	1.0		91.2
令和5年度	83.3	10.3	3.7	2.7		93.6



質問番号	質問事項					
(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか					
選択肢	1	2	3	4	5	寝ている (1+2)
令和7年度	34.1	42.7	19.7	3.5		76.8
令和6年度	33.8	49.9	14.4	1.9		83.7
令和5年度	33.2	46.9	17.2	2.7		80.1

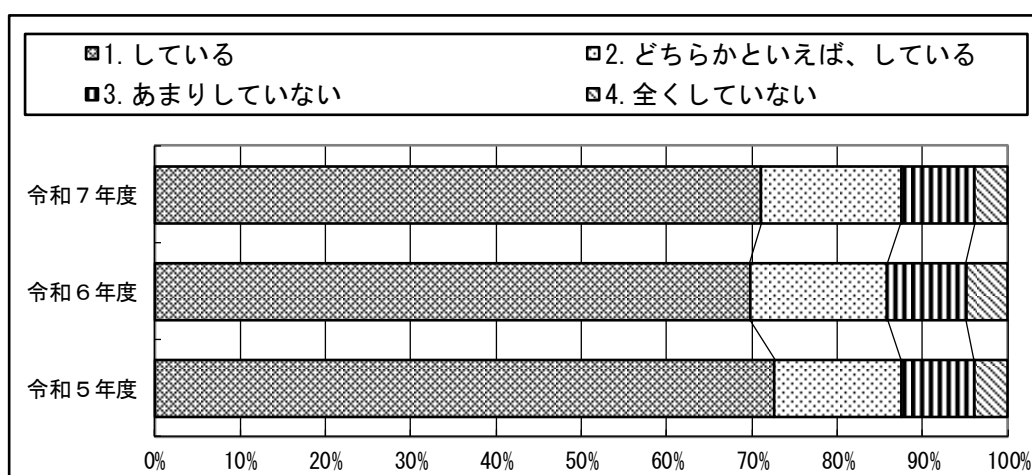


質問番号	質問事項					
(3)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか					
選択肢	1	2	3	4	5	当てはまる 1+2
令和7年度	51.0	39.4	8.3	1.3		90.4
令和6年度	51.8	38.9	8.3	1.0		90.7
令和5年度	48.4	41.5	8.1	2.0		89.9

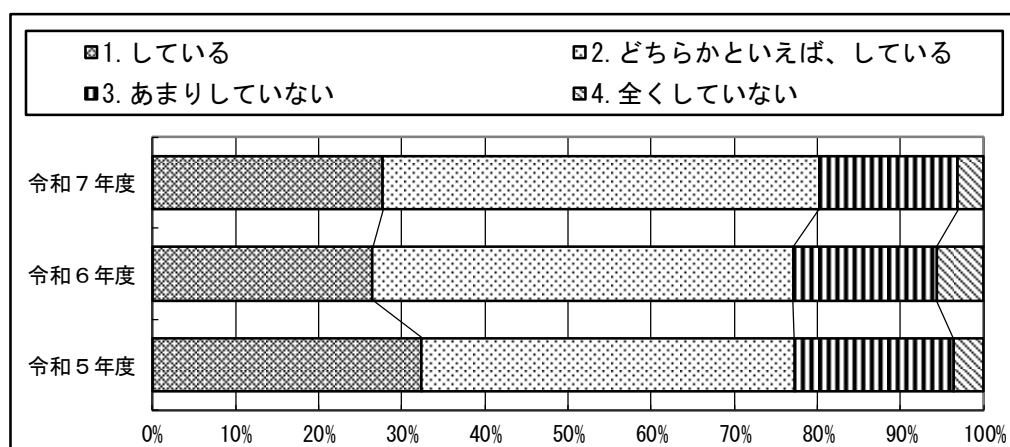


【中学校】

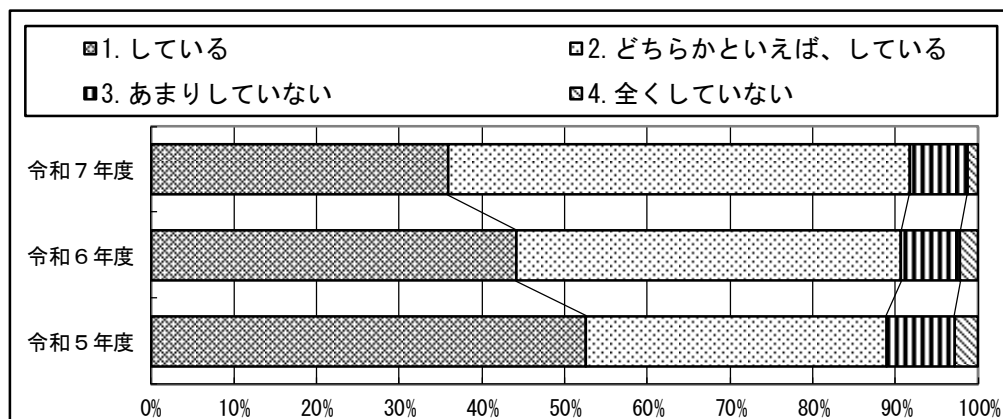
質問番号	質問事項					
(1)	朝食を毎日食べていますか					
選択肢	1	2	3	4	5	食べている (1+2)
令和7年度	71.0	16.4	8.6	3.9		87.4
令和6年度	69.8	16.1	9.3	4.9		85.9
令和5年度	72.7	14.9	8.5	4.0		87.6



質問番号	質問事項					
(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか					
選択肢	1	2	3	4	5	寝ている (1+2)
令和7年度	27.7	52.5	16.7	3.1		80.2
令和6年度	26.4	50.4	17.2	5.7		76.8
令和5年度	32.4	44.8	19.1	3.7		77.2



質問番号	質問事項					
(3)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか					
選択肢	1	2	3	4	5	起きている (1+2)
令和7年度	35.8	55.6	7.0	1.3		91.4
令和6年度	43.9	46.3	7.1	2.2		90.2
令和5年度	52.5	36.3	8.2	2.9		88.8



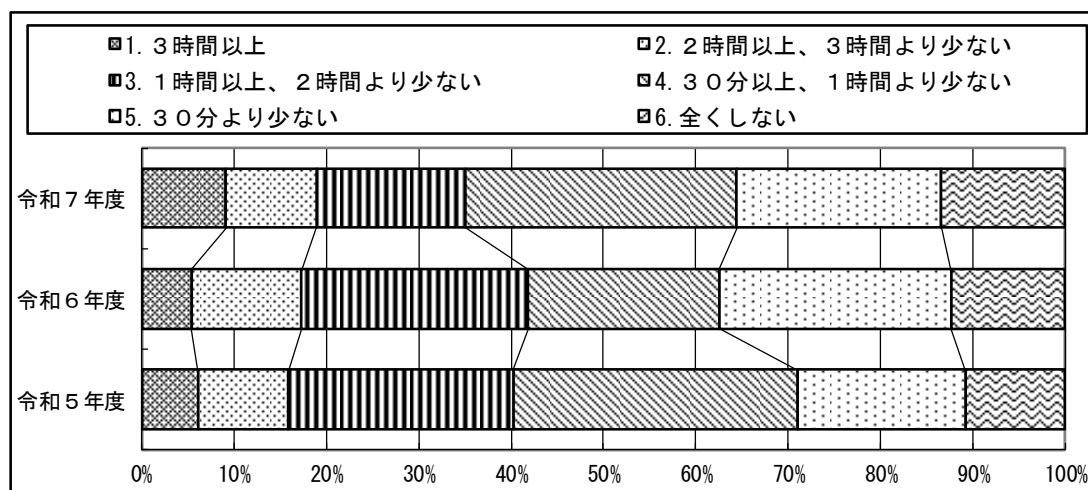
計画的な学習によって、学びの定着が図られます

今年度、【児童質問紙（17）「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」】では、家庭学習において30分以上勉強をしている児童がやや減少している傾向が見られます。また【生徒質問紙（17）「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」】においても、昨年度より学習時間が減っている傾向が見られます。小・中学校共に、平日も土日も学校外での学習時間が減少傾向があり、特に「全くしない」の割合が増えていることは危惧すべき傾向です。全国的にもスマートフォンやテレビゲームの時間が増えている一方で学力の低下が生じているという調査報告があることから、大きな課題と捉えています。

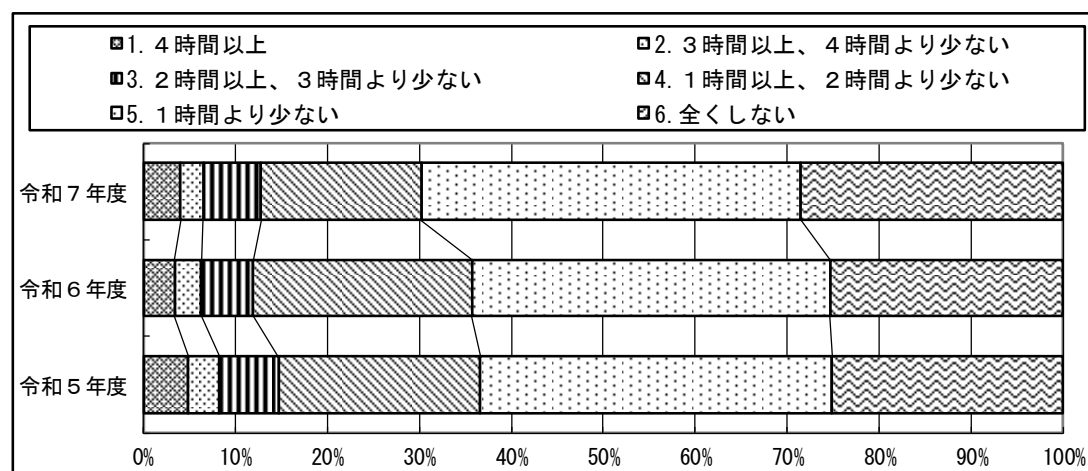
家庭において計画的に学習することで、学校で学んだことを習得することができ、また日々の積み重ねにより学習内容の定着が図られます。家庭で学習に取り組む習慣を身に付けることは、学習習慣だけでなく学習意欲にもつながります。学校から帰宅した後の時間の過ごし方について、今一度考える機会を家庭でもつことが大切です。

【小学校】

質問番号	質問事項					
(17)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）					
選択肢	1	2	3	4	5	6
令和7年度	9.1	9.8	16.2	29.3	22.2	13.4
令和6年度	5.4	11.9	24.6	20.7	25.1	12.4
令和5年度	6.1	9.8	24.3	30.7	18.2	10.8

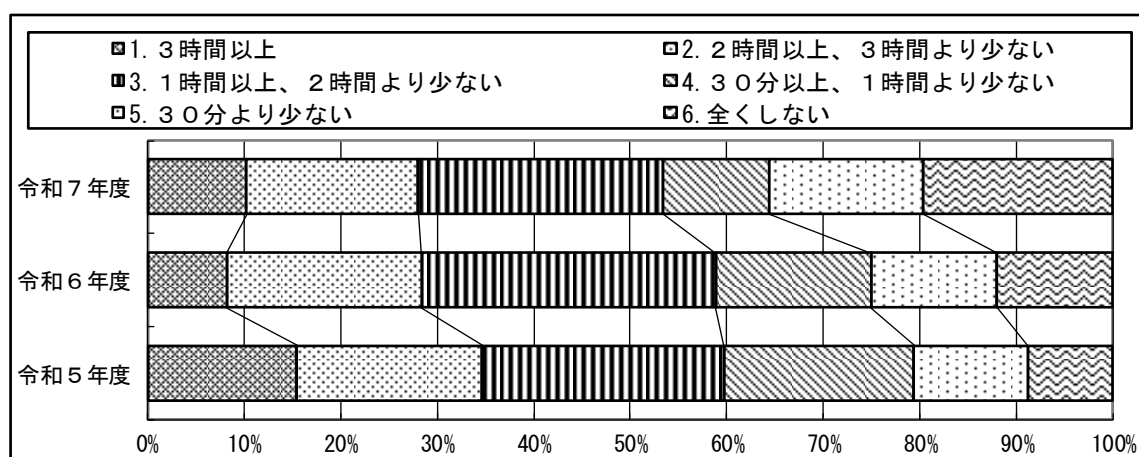


質問番号	質問事項					
(19)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）					
選択肢	1	2	3	4	5	6
令和7年度	4.0	2.5	6.3	17.4	41.2	28.5
令和6年度	3.4	2.9	5.6	23.8	38.9	25.3
令和5年度	4.9	3.4	6.4	21.9	38.3	25.1

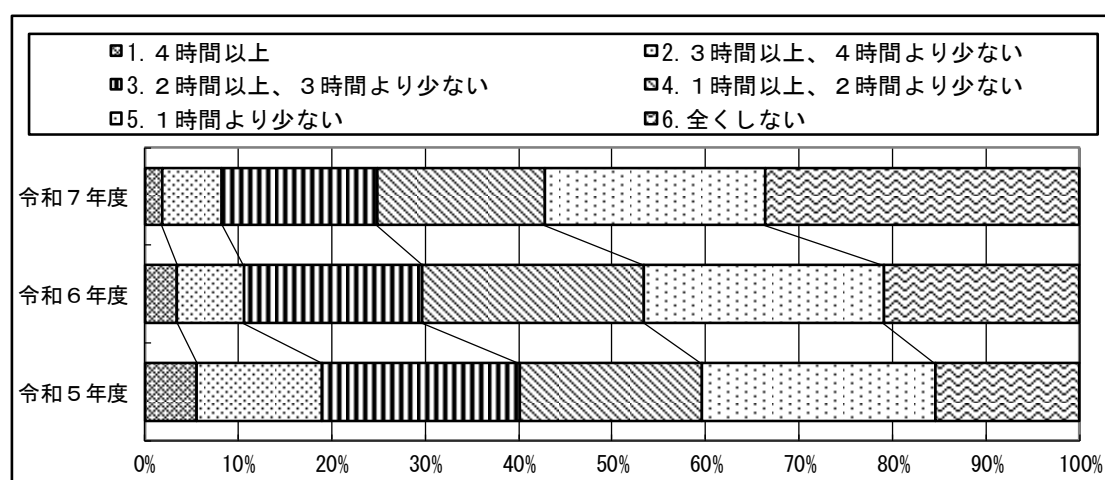


【中学校】

質問番号	質問事項					
(17)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）					
選択肢	1	2	3	4	5	6
令和7年度	10.2	17.8	25.3	11.0	15.9	19.6
令和6年度	8.2	20.2	30.5	16.1	13.1	12.0
令和5年度	15.4	19.1	24.9	19.6	11.7	8.8



質問番号	質問事項					
(19)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）					
選択肢	1	2	3	4	5	6
令和7年度	1.8	6.3	16.2	17.5	23.0	32.9
令和6年度	3.5	7.1	19.1	23.7	25.6	21.0
令和5年度	5.6	13.3	21.0	19.4	24.9	15.4



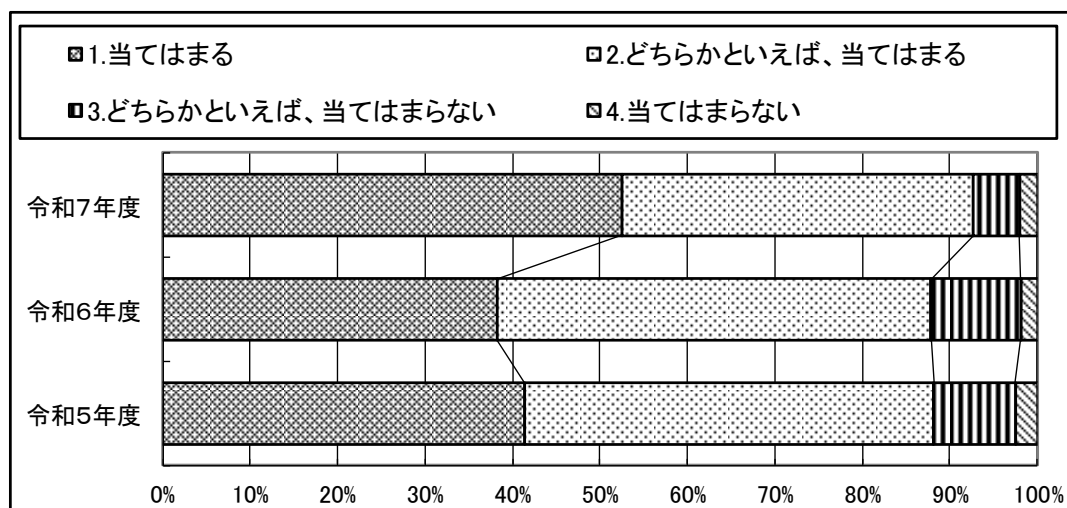
◇主体的な学習を支える基盤づくりについて

主体的な学習を支える基盤づくり

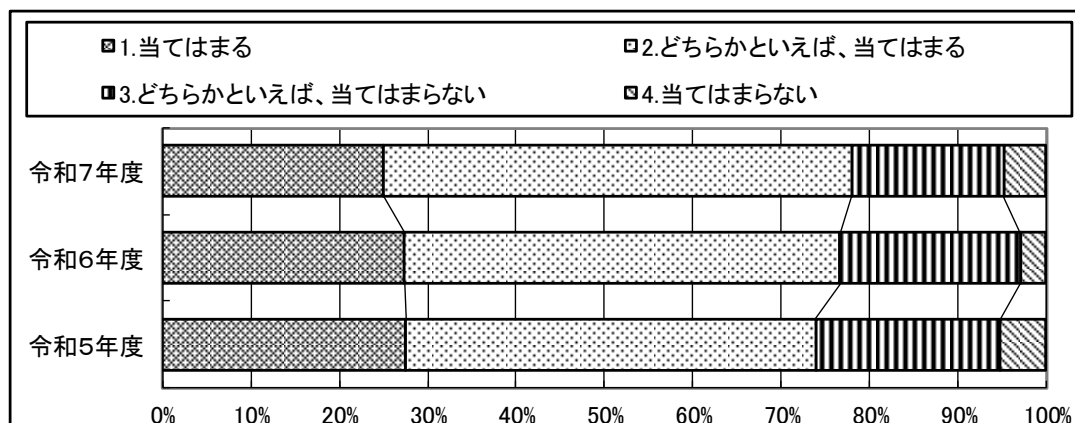
児童・生徒が相互に認め合い、励まし合い、支え合う人間関係は、学級・学校の基盤であり、生きる原動力となります。児童・生徒が充実した学校生活を送るためには、「自分のことが好き」という気持ち（自尊感情）を育み、学級・学校を構成する一員であるという所属感を持たせ、周りから認められているという充実感を味わわせるようにすることが必要です。【児童質問紙（６）「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」】【児童質問紙（４１）「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」】【児童質問紙（４２）「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」】では、小学校において児童の自己肯定感を育む環境を作られており、安心して学校生活を送る体制づくりが進められている状況が伺えます。引き続き、学校生活の土台となる学級づくりに力を入れていくことが重要です。

【小学校】

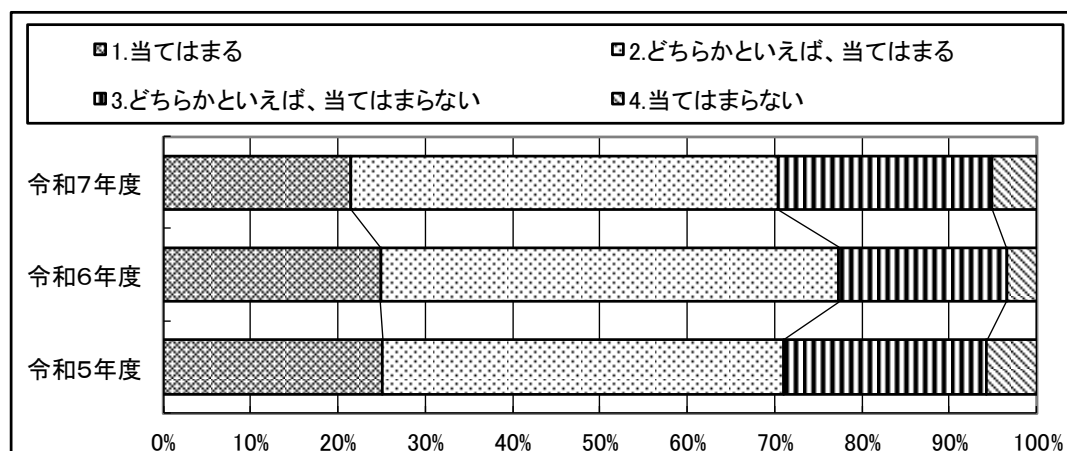
質問番号	質問事項					
(6)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか					
選択肢	1	2	3	4		当てはまる (1+2)
令和7年度	52.5	40.2	5.3	2.0		92.7
令和6年度	38.2	49.6	10.2	1.9		87.8
令和5年度	41.3	46.7	9.3	2.5		88.0



質問番号	質問事項					
(41)	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか					
選択肢	1	2	3	4	5	当てはまる (1+2)
令和7年度	25.0	53.0	17.2	4.8		78.0
令和6年度	27.3	49.1	20.4	2.9		76.4
令和5年度	27.5	46.4	20.9	5.2		73.9



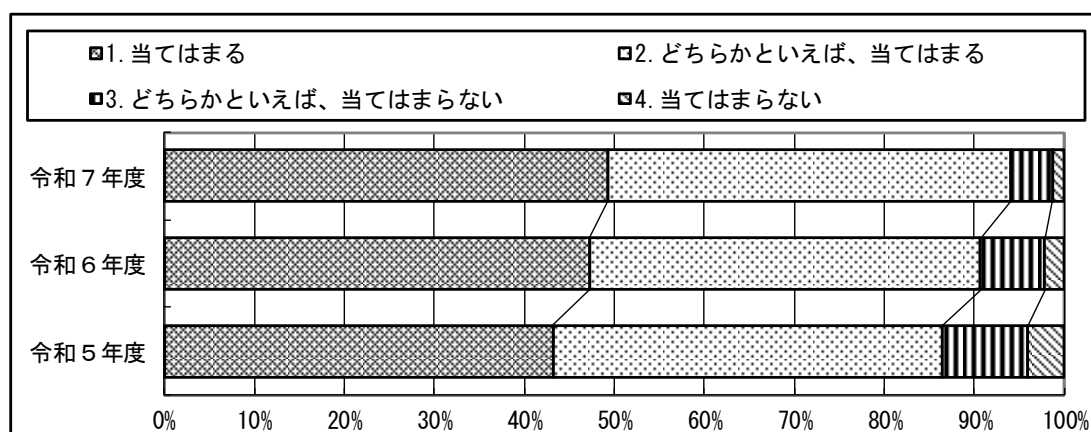
質問番号	質問事項					
(42)	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか					
選択肢	1	2	3	4	5	当てはまる (1+2)
令和7年度	21.5	49.0	24.5	5.1		70.5
令和6年度	24.8	52.3	19.2	3.4		77.1
令和5年度	25.1	45.9	23.3	5.7		71.0



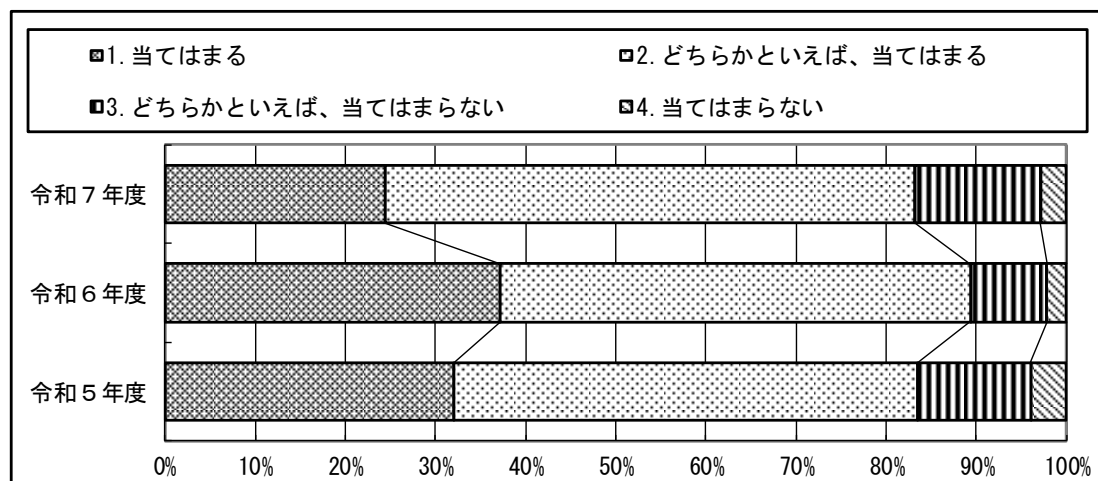
中学校においても、小学校と同様に、【生徒質問紙（６）「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」】でわかる通り、教職員が生徒の自己肯定感を育くむよう活動に取り組んでいます。一方で、【生徒質問紙（４１）「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」】【生徒質問紙（４２）「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」】においては、取り組んでいると考えている生徒の割合が低下しています。教職員と生徒との関係に比べると、生徒同士の関係性の構築が思い通りに進んでいない状況もあることが考えられます。生徒が互いに素直に自分の気持ちや考えを出し合えるような、心理的安全性の高い学級を目指し、これまで以上に学級づくりを通した学校生活の質の向上を進めていくことが重要です。

【中学校】

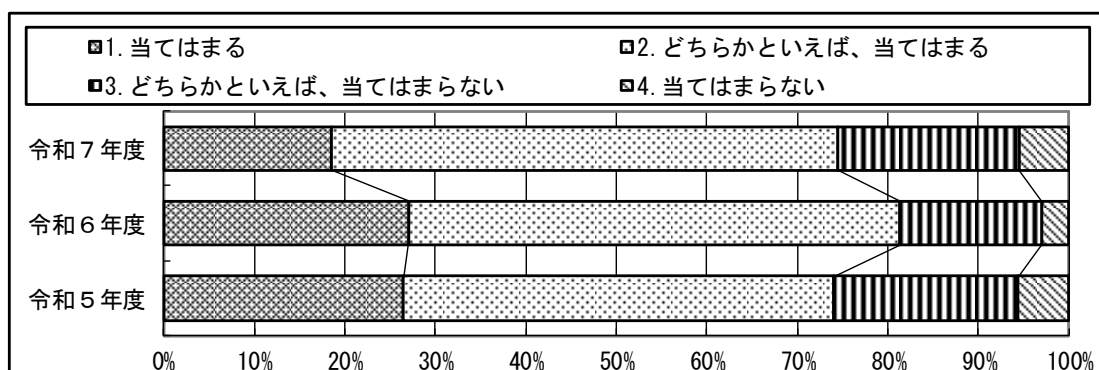
質問番号	質問事項					
(6)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか					
選択肢	1	2	3	4		当てはまる (1 + 2)
令和7年度	49.1	44.6	4.7	1.3		93.7
令和6年度	47.1	43.3	7.1	2.2		90.4
令和5年度	43.0	43.0	9.5	4.0		86.0



質問番号	質問事項					
(41)	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか					
選択肢	1	2	3	4		当てはまる (1+2)
令和7年度	24.3	58.5	13.8	2.9		82.8
令和6年度	37.1	52.0	8.4	2.2		89.1
令和5年度	32.1	51.5	12.5	4.0		83.6



質問番号	質問事項					
(42)	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか					
選択肢	1	2	3	4		当てはまる 1+2
令和7年度	18.3	55.4	19.8	5.5		73.7
令和6年度	26.7	53.7	15.5	3.0		80.4
令和5年度	26.5	47.5	20.4	5.6		74.0



資質・能力の育成に向けてICT機器を効果的に活用する

学習指導要領では、学習の基盤となる資質・能力の一つに情報活用能力を位置づけ、各教科におけるICT機器を活用した学習活動の一層の充実を目指しており、寒川町でも使用を推進してきました。しかし、ICT機器の活用は、授業改善の一手段であるため、「ICT機器を使うこと」が目的ではなく、ICT機器の特性や強みを生かして、授業のねらいを達成させるために活用する「学びの支援ツール」という視点をもつことが大切です。ICTを使って意見を共有した後は、もう一度自分自身の考えを深める時間を取り、再度考えをまとめて書くことで、深い学びとなります。また、深い学びを支える土台となるのは基礎的・基本的な学びの習得です。「漢字を書く」「計算問題を解く」などの基礎基本の土台があつてこそ活用の力が積み重なっていきます。今後も、授業の中でより一層効果的にICT機器を活用していく必要があります。

【小学校】

児童数の割合（％）

質問 番号	質問事項		選択肢							
			1	2	3	4	5	6		ほぼ毎日 (1+2)
(28)	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	寒川町	33.3	28.3	24.2	7.8	2.8	3.5		61.6
		全国(公立)	24.5	22.2	25.0	18.0	7.2	3.1		46.7

1 ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用) 2 ほぼ毎日(1日に1回くらいの授業) 3 週3回以上 4 週1回以上
5 月1回以上 6 月1回未満

【中学校】

生徒数の割合（％）

質問 番号	質問事項		選択肢							
			1	2	3	4	5	6		ほぼ毎日 (1+2)
(28)	1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	寒川町	79.9	13.6	3.7	1.0	0.5	1.3		93.5
		全国(公立)	29.5	23.7	23.3	15.7	5.3	2.0		53.2

1 ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用) 2 ほぼ毎日(1日に1回くらいの授業) 3 週3回以上 4 週1回以上
5 月1回以上 6 月1回未満

2 資質・能力を育むための授業づくり

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善～

◇ 資質・能力を育むために

・これから求められることは、知識をいかに活用することができるか

◇ 調査結果

◇ 国語について

◇ 算数・数学について

◇ 理科について

◇ ICT 機器を生かしたこれからの学習活動とは

2 資質・能力を育むための授業づくり

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善～

◇資質・能力を育むために

これから求められることは、知識をいかに活用することができるか

平成29年3月に公示された学習指導要領⁵では、教科等の目標や内容について、生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」という3つの柱に基づいて再整理され、これらの資質・能力の3つの柱が相互に関係し合いながら育成されるものという考え方に立っています。そのための授業改善の一つとして、学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」のある授業の実現が求められています。そこでは、教師が主役ではなく、学習の主役は児童・生徒です。「主体的・対話的で深い学び」の視点から、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」といった3つの資質・能力を育成することを目指して授業改善を図っていきます。「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の視点であり、資質・能力を育むことが授業の目的です。授業を通して、単元を通して、教育課程を通して、子どもたちにどのような姿になってほしいのか、また、担任として、学年として、学校としてどのような力をつけていきたいのか、小さな視点ではなく、大きな視野をもって、子どもたちの成長を願い、よさを育んでいく必要性があります。

5【学習指導要領との関連：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善】単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。特に、各教科等において身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を発揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（以下「見方・考え方」という。）が鍛えられていくことに留意し、児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の具体的な内容については、中央教育審議会答申において、以下の三つの視点に立った授業改善を行うことが示されている。教科等の特質を踏まえ、具体的な学習内容や児童の状況等に応じて、これらの視点の具体的な内容を手掛かりに、質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすることが求められている。

- ① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。
- ② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。
- ③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

（小学校学習指導要領総則第3・1(1)より：中学校については児童を生徒とし、内容については同様の記載）

また、令和3年1月に中央教育審議会の答申「『令和の日本型学校教育⁶』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」では、学習指導要領に示す、誰一人取り残すことのない持続可能な社会の創り手の育成をめざし、そのツールとしてのICTを基盤としながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」がセットで重視されています。児童生徒一人ひとりの興味関心や発達の状況等を踏まえて、それぞれの個性を伸ばし資質・能力を高めつつ、学級集団や学習集団において、子ども同士や子どもと教師、子どもと地域の方々など、多様な他者との関わりを通して、よりよい学びを創り出すために、学び合い、高め合う関係性を大切にできるような授業づくり・学級づくりを目指していきます。

6 社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきた中、子供たちの資質・能力を確実に育成する必要があるためには、新学習指導要領の着実な実施が重要であるとした。その上で、我が国の学校教育がこれまで果たしてきた役割やその成果を振り返りつつ、新型コロナウイルス感染症の感染拡大をはじめとする社会の急激な変化の中で再認識された学校の役割や課題を踏まえ、2020年代を通じて実現を目指す学校教育を「令和の日本型学校教育」とし、その姿を「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」とした。ここでは、ICTの活用と少人数によるきめ細かな指導体制の整備により、「個に応じた指導」を学習者視点から整理した概念である「個別最適な学び」と、これまでも「日本型学校教育」において重視されてきた、「協働的な学び」とを一体的に充実することを目指している。

（「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）より）

◇調査結果

学習指導要領の趣旨を踏まえ、全国学力・学習状況調査においても平成31年度から問題形式が変更され、知識・活用を一体的に問う形式が中心となっています。「知識」と「活用」は分けて育成されるのではなく、知識を活用した学習を通して知識の定着や知識理解の深まりが図られると考えられます。

一方で学習指導要領では、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育む、とされており、知識の確実な習得が学力形成の前提となることを示しています。

調査結果 小学校 国語

令和7年度 調査結果 小学校【国語】

分類			区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
					寒川町	全国との差	全国(公立)
全体				14	64	-2.8	66.8
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項		2	69.6	-7.3	76.9
		(2) 情報の扱い方にに関する事項		1	61.3	-1.8	63.1
		(3) 我が国の言語文化に関する事項		1	82.8	1.6	81.2
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと		3	62.4	-3.9	66.3
		B 書くこと		3	67.8	-1.7	69.5
		C 読むこと		4	54.4	-3.1	57.5

令和6年度 調査結果 小学校【国語】

分類			区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
					寒川町	全国との差	全国(公立)
全体				14	62	-5.7	67.7
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項		4	55.4	-9.0	64.4
		(2) 情報の扱い方にに関する事項		1	85.3	-1.6	86.9
		(3) 我が国の言語文化に関する事項		1	67.2	-7.4	74.6
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと		3	58.1	-1.7	59.8
		B 書くこと		2	61.1	-7.3	68.4
		C 読むこと		3	67.2	-3.5	70.7

※濃い黒い網掛けは全国平均正答率との差が10ポイント以上、薄い黒の網掛けは全国平均正答率との差が5ポイント以上(以下同様)

令和5年度 調査結果 小学校【国語】

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				寒川町	全国との差	全国（公立）
全体			14	63	-4.2	67.2
学習指導要領 の内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	5	66.4	-4.8	71.2
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	2	61.5	-1.9	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	68.1	-4.5	72.6
		B 書くこと	1	22.2	-4.5	26.7
		C 読むこと	2	65.5	-5.7	71.2

調査結果 中学校 国語

令和7年度 調査結果 中学校【国語】

分類			区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
					寒川町	全国との差	全国（公立）
全体				14	49	-5.3	54.3
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	42.4	-5.7	48.1	
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	0				
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0				
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	4	48.9	-4.3	53.2	
		B 書くこと	5	45.2	-7.6	52.8	
		C 読むこと	3	58.3	-4.0	62.3	

令和6年度 調査結果 中学校【国語】

分類			区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
					寒川町	全国との差	全国（公立）
全体				15	56	-2.1	58.1
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	3	54.9	-4.3	59.2	
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	2	56.9	-2.7	59.6	
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	83.0	7.4	75.6	
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	57.5	-1.3	58.8	
		B 書くこと	2	66.3	1.0	65.3	
		C 読むこと	4	43.8	-4.1	47.9	

令和5年度 調査結果 中学校【国語】

分類			区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
					寒川町	全国との差	全国（公立）
全体				15	64	-5.8	69.8
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	53.8	-13.7	67.5	
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	58.7	-4.7	63.4	
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	71.0	-3.7	74.7	
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	79.9	-2.3	82.2	
		B 書くこと	2	57.8	-5.4	63.2	
		C 読むこと	4	59.3	-4.4	63.7	

調査結果 小学校 算数

令和7年度 調査結果 小学校【算数】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			寒川町	全国との差	全国（公立）
全体		16	55	-3.0	58.0
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	58.8	-3.5	62.3
	B 図形	4	54.1	-2.1	56.2
	C 測定	2	55.3	0.5	54.8
	C 変化と関係	3	57.8	0.3	57.5
	D データの活用	5	59.6	-3.0	62.6

令和6年度 調査結果 小学校【算数】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			寒川町	全国との差	全国（公立）
全体		16	58	-5.4	63.4
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	60.7	-5.3	66.0
	B 図形	4	60.5	-5.8	66.3
	C 測定	0			
	C 変化と関係	3	46.5	-5.2	51.7
	D データの活用	4	56.2	-5.6	61.8

令和5年度 調査結果 小学校【算数】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			寒川町	全国との差	全国（公立）
全体		16	58	-4.5	62.5
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	61.5	-5.8	67.3
	B 図形	4	46.1	-2.1	48.2
	C 測定	0			
	C 変化と関係	4	66.6	-4.3	70.9
	D データの活用	3	59.6	-5.9	65.5

調査結果 中学校 数学

令和7年度 調査結果 中学校【数学】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			寒川町	全国との差	全国（公立）
全体		16	36	-12.3	48.3
学習指導要領の領域	A 数と式	5	32.1	-11.4	43.5
	B 図形	4	35.6	-10.9	46.5
	C 関数	3	36.5	-11.7	48.2
	D データの活用	3	43.8	-14.8	58.6

令和6年度 調査結果 中学校【数学】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			寒川町	全国との差	全国（公立）
全体		16	48	-4.5	52.5
学習指導要領の 領域	A 数と式	5	47.8	-3.3	51.1
	B 図形	3	33.2	-7.1	40.3
	C 関数	4	57.6	-3.1	60.7
	D データの活用	4	48.3	-7.2	55.5

令和5年度 調査結果 中学校【数学】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			寒川町	全国との差	全国（公立）
全体		15	43	-8.0	51.0
学習指導要領の 領域	A 数と式	5	53.5	-9.5	63.0
	B 図形	3	24.4	-8.8	33.2
	C 関数	4	45.3	-5.9	51.2
	D データの活用	3	43.6	-4.9	48.5

【参考】各年度の問題の難易度を厳密に調整する設計とはしておらず、年度によって出題内容も異なることから、過年度の結果と単純に比較することは適当ではないことに留意。

〈出典〉令和7年度全国学力・学習状況調査 報告書（文部科学省 国立教育政策研究所）

調査結果 小学校 理科

令和7年度 調査結果 小学校【理科】

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				寒川町	全国との差	全国（公立）
全体			17	54	-3.1	57.1
学習指導要 領の区分・ 領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	44.9	-1.8	46.7
		「粒子」を柱とする領域	6	50.5	-0.9	51.4
	B区分	「生命」を柱とする領域	4	45.9	-6.1	52.0
		「地球」を柱とする領域	6	64.0	-2.7	66.7

調査結果 中学校 理科

令和7年度 調査結果 中学校【理科】

IRTバンド集計値

IRT バンド	割合(%)		
	寒川町	全国との差	全国 (公立)
5	2.9	-3.3	6.2
4	15.1	-5.2	20.3
3	42.2	0.2	42.0
2	34.6	7.3	27.3
1	5.2	1.0	4.2

	平均IRTスコア
寒川町	472
全国(公立)	503

◇ 国語について

【小学校】

昨年度以前から課題にあがっている「言葉の特徴や使い方に関する事項」についてみると、小学校では引き続き基本的な漢字の読み書きに課題があることがわかります。

問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		
			寒 川 町	全 国 と の 差	全 国 (公 立)
2 四ア	【ちらし】の下線部アを、漢字を使って書き直す (このみ)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で 正しく使うことができるかどうかをみる	77.7	-3.9	81.6
2 四イ	【ちらし】の下線部イを、漢字を使って書き直す (あつい日)		61.5	-10.6	72.1

問題 小学校 2 四イ

【ちらし】の下線部イを、漢字を使って書き直す (あつい日)

下線の部分は「暑」が解答となります。同音異義語として、「熱い」「暑い」「厚い」があることから、その文章内での意味に応じて使い分ける必要があります。正確に書く力を身に着けていることはもちろん、文や文章の中で使うとともに書くことが重要であり、知識を活用しながら学習することで、知識の定着とともに知識理解の深まりを図ることが重要です。

問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		
			寒 川 町	全 国 と の 差	全 国 (公 立)
2 三	【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に 詳しく書く	目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく 書いたりするなど、自分の考えが伝わるように 書き表し方を工夫することができるかどうかを みる	58.2	-3.1	61.3

問題 小学校 2 三

【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に詳しく書く

一方、問題 2 三は記述式の問題ですが、正答率は 58.2%と全国平均と大きな差はなく、示された情報を活用して記述することのできる児童が多く育っていることがわかります。なお、無回答率は 4.6%であり全国平均の 5.0%を下回っています。【児童質問紙調査 (4 4)「国語の勉強は得意ですか」】によると、60%以上の児童が国語の勉強は得意とい

う認識があり、前向きに国語の学習に取り組んでいることが書く力を含めた言語能力の向上に結び付いていることが伺えます。

児童数の割合(%)

質問 番号	質問事項	選択肢					
		1	2	3	4		そう思う (1+2)
(44)	国語の勉強は得意ですか	寒川町	23.5	40.9	24.0	11.6	64.4
		全国(公立)	21.3	40.1	26.6	11.9	61.4

1 とてもそう思う 2 そう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない

【中学校】

中学校においても「言葉の特徴や使い方に関する事項」に課題が見られます。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		
			寒川町	全国との差	全国(公立)
1ー	変換した漢字として適切なものを選択する(かいしん)	文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる	31.8	-3.4	35.2
3三	「しきりと」の意味として適切なものを選択する	事象や行為を表す語彙について理解しているかどうかをみる	52.9	-8.1	61.0

問題 中学校 3 三

「しきりと」の意味として適切なものを選択する

問題3三では、「しきりと」の意味を「何度も」という解答を選んでいる生徒はおよそ50%であり、基本的な語彙を豊かにする必要があります。授業での学習はもちろん、日常的な読書も含めて、幅広い生活の中で多様な活字に触れる機会を設けることで、語彙を豊かにするとともに、日本語で大切にされてきた繊細な表現を学んでいくことが期待されます。

生徒数の割合(%)

質問 番号	質問事項		選択肢					
			1	2	3	4	5	6
(21)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）	寒川町	1.6	5.2	8.4	15.1	19.8	47.5
		全国(公立)	3.6	6.0	11.8	19.0	14.8	41.8

1 2時間以上 2 1時間以上、2時間より少ない 3 30分以上、1時間より少ない
 4 10分以上、30分より少ない 5 10分より少ない 6 全くしない

質問 番号	質問事項		選択肢					
			1	2	3	4	5	6
(22)	あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）	寒川町	20.1	26.1	32.1	13.6	4.4	1.3
		全国(公立)	17.4	21.5	30.8	14.8	9.4	3.0

1 0～10冊 2 11～25冊 3 26～100冊 4 101～200冊 5 201～500冊 6 501冊以上

◇ 算数・数学について

【小学校】

小学校の算数では、基礎・基本の確実な習得に課題が見られます。特に、分数や、単位当たりの量といった数量の概念を獲得していく過程は、その後の中学校や高等学校での学習においても土台となってくる部分でもあることから、丁寧に理解を進めていくことを改めて認識する必要があります。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		
			寒川町	全国との差	全国(公立)
3(1)	0.4 + 0.05について、整数の加法で考えときの共通する単位を書く	小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができるかどうかをみる	68.4	-5.7	74.1
3(2)	$3/4 + 2/3$ について、共通する単位分数と、 $3/4$ と $2/3$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く	分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	17.2	-5.8	23.0
3(4)	$1/2 + 1/3$ を計算する	異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる	69.1	-12.2	81.3

【中学校】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		
			寒川町	全国との差	全国(公立)
1	1から9までの数の中から素数を全て選ぶ	素数の意味を理解しているかどうかをみる	28.2	-3.6	31.8
2	果汁40%の飲み物a mLに含まれる果汁の量を、aを用いた式で表す	数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる	35.5	-16.4	51.9
3	$\triangle ABC$ において、 $\angle A$ の大きさが 50° のときの頂点Aにおける外角の大きさを求める	多角形の外角の意味を理解しているかどうかをみる	42.6	-15.5	58.1
4	一次関数 $y = 6x + 5$ について、xの増加量が2のときのyの増加量を求める	一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、xの増加量に対するyの増加量を求めることができるかどうかをみる	22.6	-12.1	34.7
5	ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m以上25m未満の階級の相対度数を求める	相対度数の意味を理解しているかどうかをみる	19.8	-22.7	42.5

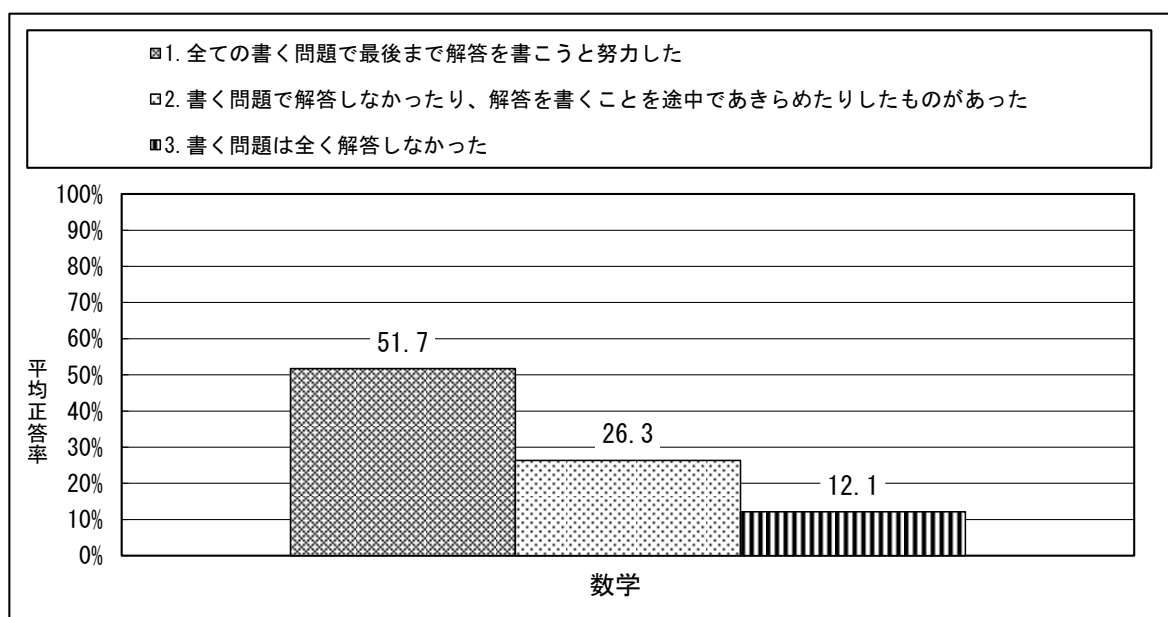
中学校では特に基礎・基本の確実な習得が求められます。問題1、3、5からは「素数」「外角」「相対度数」といった基本的な用語を十分理解していないことがわかります。また、パーセント濃度を文字式を使って表す問題2からは、算数から数学となり急激に使用頻度の増えた、文字を用いた式が十分に扱えていないことがわかるため、数学を学び始めた初期の頃からつまずきがあった可能性が考えられます。

数学の問題では問題文が長く、理解に時間がかかる問題が多く見られ、解答者に粘り強さが必要とされる内容でした。【生徒質問紙調査(数1)「今回の数学の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」】と教科の平均正答率とのクロス集計結果では、問題に粘り強く解答した生徒は国語の正答率が約55%、数学が約52%でした。一方、途中であきらめてしまった生徒は、国語の正答率が約45%でしたが、数学が約26%と非常に低くなっています。数学では、国語以上に解答者の粘り強く書こうとする力が問われたといえます。

数学の課題は、中学校入学時の生徒の学習アセスメントや基礎・基本の学習の積み重ね方、根本的な数学の価値や興味・関心を高める工夫など、数多くの要素が複雑に重なり合っています。そのため、そういった課題全体に対応するために、生徒には粘り強く学習に取り組む姿勢がさらに必要であり、教職員にも粘り強く指導に当たる姿勢が今まで以上に重要となっています。

質問番号	質問事項
(数 1)	今回の数学の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか

選択肢		生徒数の割合 (%)	平均正答率 (%)	
			国語 (14問)	数学 (15問)
1	全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	43.7	55.1	51.7
2	書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた	48.5	44.9	26.3
3	書く問題は全く解答しなかった	6.9	38.9	12.1



◇ 理科について

【小学校】

小学校においては、全体としては全国平均との差は大きくないものの、国語や算数と同様、基礎・基本の定着に課題が見られます。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		
			寒川町	全国との差	全国(公立)
2(3)	ペルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く	電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる	71.6	-6.4	78.0
3(1)	ヘチマの花のおしべとめしべについて選び、受粉について書く	ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる	63.5	-7.2	70.7
3(2)	ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ	顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる	39.2	-6.4	45.6

一方で、以下のように「理科の勉強は得意」「理科の勉強は好き」と答える児童がおよそ80%という質問紙調査の結果もあることから、学校における授業展開は児童の興味を引き付けて実施されていることがわかります。引き続き、児童の気持ちを引き付けつつ、基礎・基本の確実な習得を目指すことが大切です。

質問番号	質問事項		児童数の割合(%)					
			選択肢					そう思う (1+2)
			1	2	3	4	5	
(60)	理科の勉強は得意ですか	寒川町	48.7	33.8	12.1	5.3		82.5
		全国(公立)	40.9	37.5	15.3	6.2		78.4
(61)	理科の勉強は好きですか	寒川町	53.0	24.0	15.2	7.8		77.0
		全国(公立)	51.7	28.4	12.4	7.4		80.1

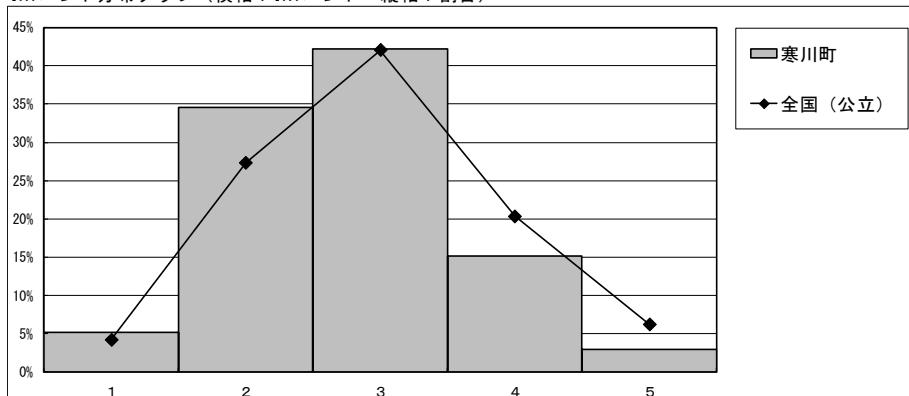
1 とてもそう思う 2 そう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない

【中学校】

中学校では、問題が一部を除き公開されていない状況のため、問題の内容からの分析は難しい面があります。今回から始まった IRT スコアの分布である、IRT バンド分布グラフにおいては、標準的な正規分布の結果では、バンド3が約40%、2・4が約23%、1・5

が約7%とされています。実際のスコアは誤差が生じますが、寒川町においてはバンド3は約40%となっている一方で、2が約35%、4が約15%となっています。

IRTバンド分布グラフ（横軸：IRTバンド 縦軸：割合）



IRTバンド集計値

IRT バンド	割合 (%)	
	寒川町	全国 (公立)
5	2.9	6.2
4	15.1	20.3
3	42.2	42.0
2	34.6	27.3
1	5.2	4.2

難易度が3を超える問題に取り組んでいる生徒の割合が少ない状況の要因は、【生徒質問紙調査（62）「理科の授業の内容はよく分かりますか」】から、授業内容の理解が十分ではないことが考えられます。さらに【生徒質問紙調査（66）「理科の授業で学習した考え方を普段の生活の中で活用できていますか」】では全国と比べても「そう思う」と答えた生徒は少なく、学習内容を自分事として落とし込めていないことから理解が深まっていない様子が伺えます。新たな学習内容に取り組んだ際に実生活との関わりを生徒同士で話し合う場面を作ったり、授業や授業以外での様々な場面で、学習内容が生活の中とつながっている例を紹介するなど、多角的な取り組みが必要です。現実世界の一部を取り出して分類、分析をして体系化してきた学問が理科であることを再確認し、理科と実生活との関わりを意識できるような学習活動を行っていくことが必要です。

児童数の割合 (%)

質問 番号	質問事項		選択肢					そう思う (1+2)	全国 との差
			1	2	3	4			
(62)	理科の授業の内容はよく分かりますか	寒川町	21.4	40.5	28.2	9.7		61.9	-9.5
		全国(公立)	26.1	45.3	21.2	6.9		71.4	
(66)	理科の授業で学習した考え方を普段の生活の中で活用できていますか	寒川町	6.8	32.1	36.6	23.5		38.9	-11.8
		全国(公立)	13.6	37.1	34.0	14.7		50.7	

1 とてもそう思う 2 そう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない

◇ICT 機器を生かしたこれからの学習活動とは

ICT 機器をどう使っていくか、再確認することが必要です

寒川町では児童・生徒の ICT 機器の活用が進んでおり、全国平均と比べても使用頻度は高く、【児童質問紙（28）】「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか」によると、小学校では 60%以上の児童がほぼ毎日使っています。また、【生徒質問紙（28）】「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか」によると、中学校では 90%以上の生徒がほぼ毎日使っています。

児童数の割合（％）

質問番号	質問事項		選択肢							
			1	2	3	4	5	6		ほぼ毎日 (1+2)
(28)	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	寒川町	33.3	28.3	24.2	7.8	2.8	3.5		61.6
		全国(公立)	24.5	22.2	25.0	18.0	7.2	3.1		46.7

1 ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用) 2 ほぼ毎日(1日に1回くらいの授業) 3 週3回以上 4 週1回以上
5 月1回以上 6 月1回未満

生徒数の割合（％）

質問番号	質問事項		選択肢							
			1	2	3	4	5	6		ほぼ毎日 (1+2)
(28)	1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	寒川町	79.9	13.6	3.7	1.0	0.5	1.3		93.5
		全国(公立)	29.5	23.7	23.3	15.7	5.3	2.0		53.2

1 ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用) 2 ほぼ毎日(1日に1回くらいの授業) 3 週3回以上 4 週1回以上
5 月1回以上 6 月1回未満

ICT 機器を使うことで、情報を整理したり、自分以外の多くの考えに触れたりする機会を得やすくなっており、学習を深めていく道具としても活用できます。しかし、【児童・生徒質問紙調査（29-3）「あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理することができますか」と思いますか】【児童・生徒質問紙調査（29-4）「あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーションを作成することができますか」と思いますか】の結果からは、使用頻度と比べて必ずしも思考力・判断力・表現力の育成には結びついてはいないことが読み取れます。さらに、質問紙調査に対して「とてもそう思う」と答えた割合は、全国と比べても低い傾向が見られます。ICT 機器を使うことには慣れていても、それを使って学習効果を高めたり、自信をもって表現したりすることはまだ不十分なようです。ICT 機器をどのように使うことで学びが深まるのか、今回の学

習場面ではそもそも ICT 機器を使う必要があるのか等、改めて ICT 機器の活用方法を考え、教職員同士でも相談しながら学習活動を進めていくことは現在の大きな課題といえます。

ICT 機器の利点の一つとして、物理的な距離や空間にとらわれずに情報共有や双方向コミュニケーションができるということがあります。これらは協働的な学びのための大きな武器になる一方で、深い学びにつなげるためには、自分事へと落とし込むといった個人での思考が欠かせません。その意味で、個で考え、他者と共有し、改めて個に戻すという学習構造を授業展開の中でどう設定していくのかが重要です。振り返りもその一部分になるでしょう。どの場面で ICT 機器が必要になるのか、どんな機能を使うのか、もう一度見つめ直すことが大切です。ICT 機器が当たり前のように使われるようになっていくからこそ、使い方の再確認をすることで、学習活動をさらに充実させることが期待できます。

【小学校】

児童数の割合（％）

質問 番号	質問事項		選択肢					そう思う (1+2)
			1	2	3	4		
(29-3)	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか	寒川町	19.7	48.0	29.0	3.3		67.7
		全国(公立)	26.9	42.4	25.7	4.9		69.3
(29-4)	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか	寒川町	25.5	42.9	26.8	4.8		68.4
		全国(公立)	38.6	38.1	18.2	5.0		76.7

1 とてもそう思う 2 そう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない

【中学校】

生徒数の割合（％）

質問 番号	質問事項		選択肢					そう思う (1+2)
			1	2	3	4		
(29-3)	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか	寒川町	19.8	52.2	21.7	5.5		72.0
		全国(公立)	21.1	42.2	29.8	5.7		63.3
(29-4)	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか	寒川町	25.6	47.0	19.6	6.8		72.6
		全国(公立)	31.8	44.8	17.7	4.7		76.6

1 とてもそう思う 2 そう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない

3 今後に向けて

～今までも大切にしていたこと、これからも大切にすること～

◇ 家庭で育まれていること、これからも育んでほしいこと

◇ 学校で育まれていること、これからも育んでいくこと

◇ 主体的・対話的で深い学びの授業改善を通して育まれたこと、

これからも育んでいきたいこと

◇ 教室を離れても学び続ける子どもの姿を…

3 今後に向けて ～今までも大切にしていたこと、これからも大切にすること～

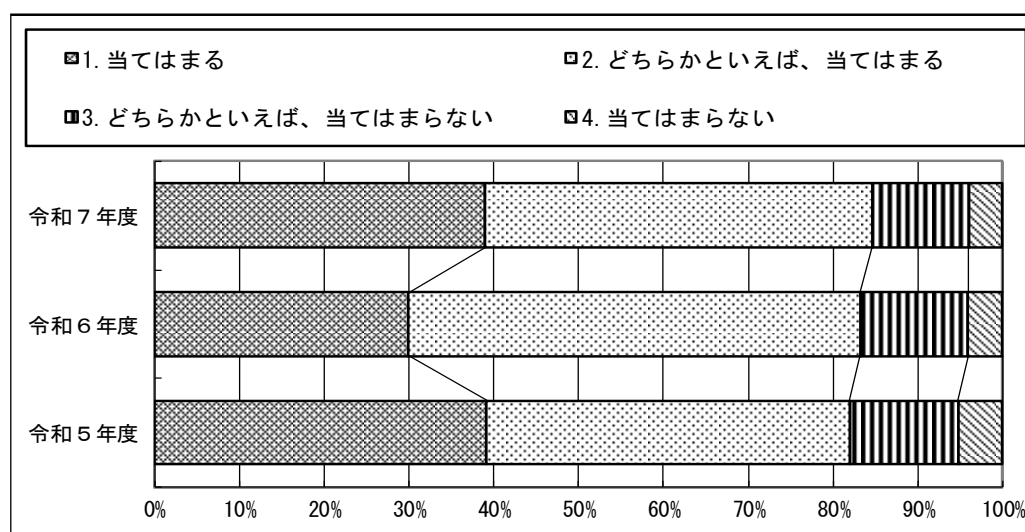
◇家庭で育まれていること、これからも育んでほしいこと

家庭での会話で育んでいきたいこと

【児童・生徒質問紙（５）「自分には、よいところがあると思いますか」】では、年々増加している傾向が見られ、小学校・中学校ともに約 85%の生徒が「当てはまる」と答えており、自分に自信をもって、物事に前向きな気持ちで取り組むことのできる土台作りが進められていることが感じられます。近年の社会は、グローバル化、情報化、少子化、高齢化等を背景に、社会構造の大きな変動期を迎えており、予測困難な将来を前提に生きていくことを求められています。そういった中では、一人ひとりの子どもたちが自分の可能性を信じ、たくましく生き抜いていく基礎を培うことが重要です。家庭での会話を通して、子どもが自信をもち、日々の生活に前向きに取り組むことができるよう、他の子どもと比較するのではなく、その子が持っている個性やよさ、頑張りなどを認め、子どもの自尊心、自己肯定感を高められるような関わり方の継続が大切です。さらに、学校や友人関係とは違う視点で話す機会を確保することによって、大切な保護者の方々へ「考えて、発信する」という場が生じます。児童・生徒にとっての思考力を伸ばしていくためにも、家庭での話す機会を大切にしてほしいと思います。

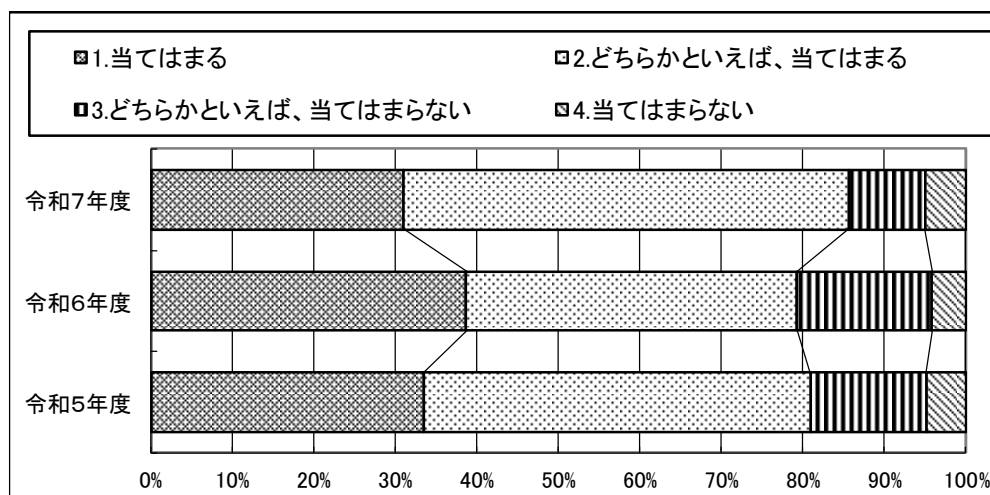
【小学校】

質問番号	質問事項					
(５)	自分には、よいところがあると思いますか					
選択肢	1	2	3	4	5	当てはまる 1 + 2
令和 7 年度	38.9	45.7	11.4	4.0		84.6
令和 6 年度	29.9	53.3	12.7	4.1		83.2
令和 5 年度	39.1	42.8	12.8	5.2		81.9



【中学校】

質問番号	質問事項					
(5)	自分には、よいところがあると思いますか					
選択肢	1	2	3	4	5	当てはまる 1+2
令和7年度	31.1	54.6	9.4	5.0		85.7
令和6年度	38.7	40.6	16.6	4.1		79.3
令和5年度	33.2	47.2	14.1	4.8		80.4



◇学校で育まれていること、これからも育んでいくこと

先生と児童・生徒との温かい関わりの中で、育まれていること

今年度の質問紙調査結果や日頃の小・中学校の様子から、児童・生徒と先生の信頼関係の高さが見られます。これは寒川町の強みとして、今後も大切にしていきたいところです。

【児童生徒質問紙(10)】「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」からは、先生から認められていると感じている児童・生徒が着実に増加していることがわかります。また、【児童生徒質問用紙(14)】「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」でも同様の傾向が見られており、中学校は全国平均よりも高い割合となっています。

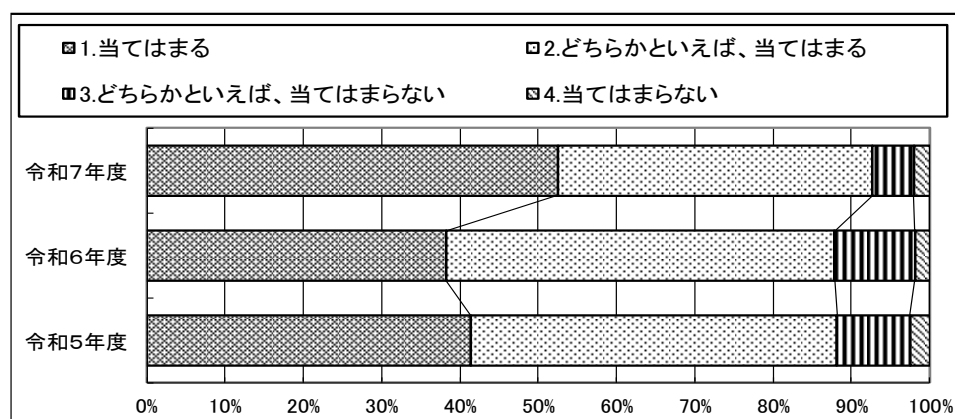
このような信頼関係が育まれることで、学校で安心して学ぶことができるという基盤が生まれ、難しいことでも挑戦しようという気持ちが育まれているといえます。そこには日頃から児童・生徒に声をかけて励ましたり、わかりやすい説明となるように工夫したりする教師の日々の積み重ねがあります。教師が児童・生徒一人ひとりに対して、丁寧に関わることで、学習に対する意欲がわき、児童・生徒もあきらめずに取り組もうとする粘り強さが育まれていくと考えられます。教師の姿がまさに子どもの姿として表れてい

ます。

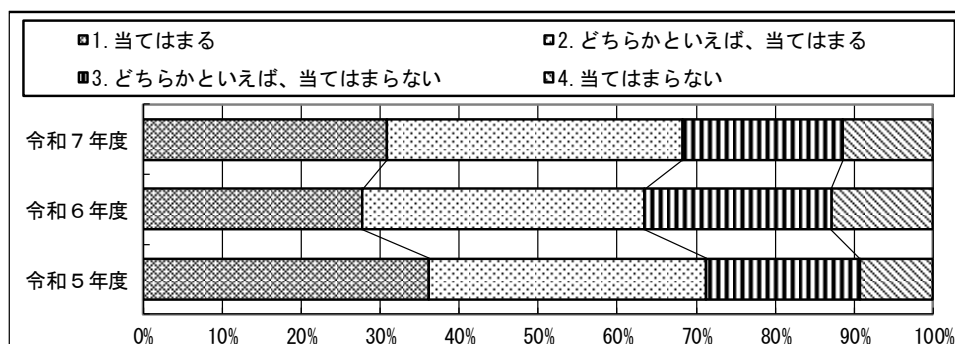
3つの育成すべき資質・能力における「学びに向かう力」が大切にしている側面に、粘り強さがあります。この「学びに向かう力」は、家庭と学校のしっかりとした生活の基盤があってこそ、育まれていくものです。家庭における規則正しい生活習慣の確立と、教師が児童・生徒一人ひとりに対して、温かく丁寧に接することによって、物事に対してあきらめない前向きな姿勢を育成していくことができると考えられます。

【小学校】

質問番号	質問事項					
(6)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか					
選択肢	1	2	3	4	5	当てはまる 1+2
令和7年度	52.5	40.2	5.3	2.0		92.7
令和6年度	38.2	49.6	10.2	1.9		87.8
令和5年度	41.3	46.7	9.3	2.5		88.0

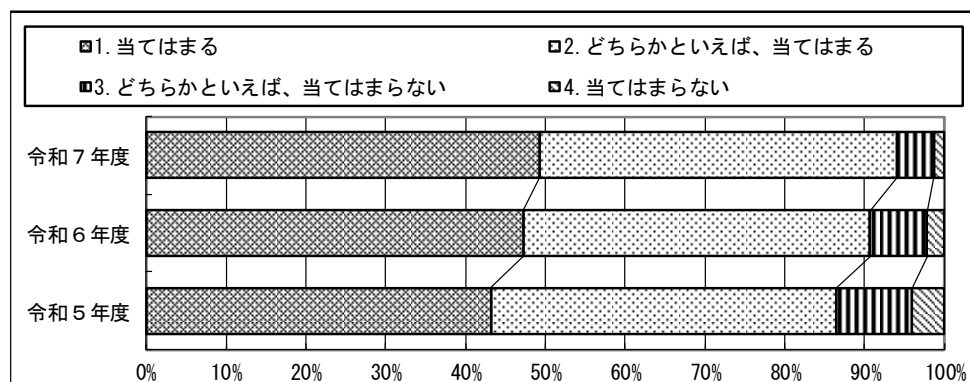


質問番号	質問事項					
(10)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか					
選択肢	1	2	3	4	5	当てはまる 1+2
令和7年度	30.8	37.4	20.2	11.4		68.2
令和6年度	27.7	35.8	23.6	12.9		63.5
令和5年度	36.1	35.1	19.4	9.3		71.2

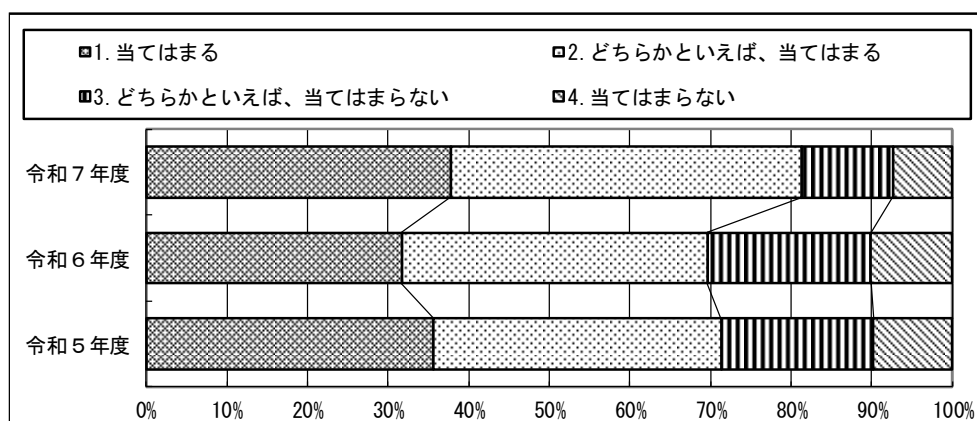


【中学校】

質問番号	質問事項					
(6)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか					
選択肢	1	2	3	4	5	当てはまる 1 + 2
令和7年度	49.1	44.6	4.7	1.3		93.7
令和6年度	47.1	43.3	7.1	2.2		90.4
令和5年度	43.0	43.0	9.5	4.0		86.0



質問番号	質問事項					
(10)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか					
選択肢	1	2	3	4	5	当てはまる 1 + 2
令和7年度	37.1	42.8	11.0	7.3		79.9
令和6年度	31.6	37.9	20.2	10.1		69.5
令和5年度	35.5	35.5	18.8	9.8		71.0



◇主体的・対話的で深い学びの授業改善を通して育まれたこと、これからも育んでいきたいこと

スケールメリットを生かした、全町一体となっていく授業改善を

「主体的・対話的で深い学び」の授業改善においては、各校での継続的で熱心な取組が行われています。寒川町の各小・中学校では、校内研究において児童生徒の資質・能力の育成に向けて、ICT機器を活用しながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて研究に取り組んでいます。また、さむかわ学びっ子推進委員会において、各校の校内研究の様子や状況について、情報交換を通して、互いの学校に持ち帰って参考としながら、さらに研究を深めています。

小学校を中心に、「主体的・対話的で深い学び」の実現が教科調査の分析結果から見られている一方で、課題も散見されます。小・中学校合わせて8校という、情報交換・情報共有をしやすいスケールメリットを生かし、全町一体となって「主体的・対話的で深い学び」の授業研究を深めていくことが大切です。

しかしながら、我々が求めていることは「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善が目的ではなく、寒川の子どもたちに育まれるべき、3つの資質・能力を育成することが目指すべきゴールとなります。「どんな子どもに育てていきたいか」を常日頃より教職員全体で意識し、よりよい授業づくりに向けて取り組む必要があります。

◇教室を離れても学び続ける子どもの姿を・・・

非認知能力の育成も重視していきます

今日、先を見通すことが難しい時代を生き抜くために、子どもたちには、「自分で課題を見つけ、対話をしたり新しい情報を取り入れたりする中で調整していく力」が必要となります。また、これから先、学習したことをどのように活用できるかが大事となってきます。学校では、単に知識を獲得するのではなく、学んだことを活用したり考えを伝え合ったり、さらにそこから自分の考えをまとめ、調整する学習を充実させ、「生きて働く知識」となるように努め、さらには「学びを教室という狭い空間」で完成させるのではなく、「教室を離れても学び続ける姿」を、意識しながら授業を創っていくことが必要であると考えます。家庭や地域でも、子どもたちのがんばりを認め、温かい言葉かけを行い、安心して様々な物事にチャレンジできる環境づくりにご協力をお願いします。

計算力や語学力といった学力テストなどで測れる能力のことを「認知能力」と呼ぶ一方、コミュニケーション力や意欲、忍耐力など、数値での測定が難しい能力のことを「非認知能力」と呼びます。こういった力については、これまでの学校教育でも当たり前のものとして育んできた面がありますが、寒川町ではより意識的に育てていこうとしています。「非認知能力」の一つ、目標の達成（やり抜く力）との関係性については、学習評価の観点になっている「主体的に取り組む態度」の2つの側面のうちの一つ、粘り強く取り組もうとする側面であり、よりよく学ぼうとする意欲をもって学習に取り組む態度として現れます。

また、「非認知能力」の一つ、他者との協働（他者とコミュニケーションできる力）との関係性についても、「協働的な学び」として学習の基本的な形として各学校で取り組まれているところです。こうした非認知能力を伸ばすためには、児童・生徒の内発的意欲を尊重することが重要になります。児童・生徒の一人ひとりが学習活動に興味をもち、主体的に取り組めるような課題設定、そしてそれに適した活動内容やしかけ、が求められます。さらに、結果だけではなく努力の過程を認め、評価することで、児童・生徒は自己効力感や自信が高まります。前述した【児童・生徒質問紙(10)】「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」で多くの児童・生徒が感じているように、先生は一人ひとりの児童・生徒に自信を持たせる言葉かけを行ってきており、今後も続けていくことが大切です。子どもが挑戦したときに、結果だけでなく過程を振り返らせたり認めたりして、次につなげる意識が育まれることが期待されます。

以上のように、児童・生徒の努力、保護者の支え、地域の協力、学校における教育実践の改善によって、寒川の子どもたちの資質・能力は着実に積み上げられてきていると考えています。学校、地域、家庭が、子どもたちの未来のために、これからも同じ方向を向いて、一緒に手を取り合って取り組むことが必要です。

今後も、それぞれの立場で適切な役割を果たしつつ、パートナーとして、未来の宝である「寒川の子どもたちのため」に連携、協力していきたいと思えます。